

サントリーマーケティング&コマース株式会社



業 種/卸売業・小売業
 主な事業内容/酒類の関連備品販売、企業の販促支援・代行
 従業員数/200人

備 蓄

防災備蓄食のローリングストックで試食会を実施

備蓄している防災食の賞味期限が迫ったことに合わせ、希望者を募って「非常食を食べよう」という企画を立ち上げた。これは、発災時の停電を想定し、災害対策本部の防災食配布、調理、食事提供から実食までの訓練を行なうのが目的である。

備蓄食料はパンやカレーなどバラエティ豊富なメニューを用意。その中から「五目ご飯」を水から作るという作業をした。提供までの時間は約60分。

また、電気が使えたとしても、場所によってはポットを並べて

一度に使うとアンペア数の不足でお湯が作れないこと等を知り、実際に体験し発見したことも多かった。

併せて防災食を試食した社員へのヒアリングを行い、それをまとめて社内イントラネットでの周知を行なった。



実際に非常食を作り、試食した様子

非常食を食べた参加者の感想

意外に美味しくてビックリ！普通に食事として食べられるレベルでした

水で作って食べるご飯は初めて。「天然水」を使ったからか、冷たくても美味しかったです

いろんな「具」が入っていて、栄養バランスが考えられている、と感じました

「非常食」って美味しくないイメージでしたが、進化しているんだな、と思いました

他の非常食にも興味が高まりました。今度自分でもお店で探して買ってみたいです

防災備蓄品にもひと工夫し、少しでも快適に

夏の災害時のために、熱中症対策として「塩分チャージタブレット」等も備蓄品として加えている。清潔を保つため、不快な気持ちを軽減するために、水を使わず拭き取って使用する「ドライシャンプー」を用意。

また、女性の生理用品はローリングストック(回転備蓄)で運用し、常時トイレに設置している。

▶塩分チャージタブレット

▼ドライシャンプー



◀女性の生理用品



備蓄品は、ロッカーの上や廊下の収納スペース等を利用する



取り出しやすいよう、常に整理されている



その他、シャツや靴下などの下着類と軽量の靴なども備蓄

訓 練

マネージャーを中心とした安否確認訓練を強化

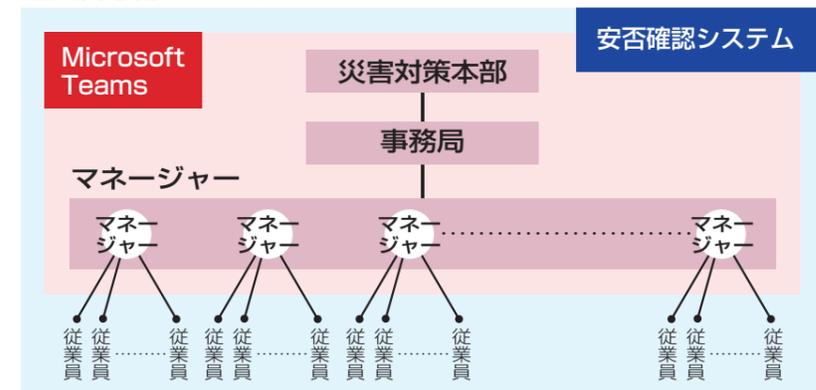
災害時には「安否確認システム」で集約された情報を、災害本部で立ち上げた「Teams」を使って全体を把握している。

「Teams」はネットの掲示板のようなもので、各部署のマネージャーに現況の情報発信ができ、マネージャーは、安否確認の返信がない従業員に個別に連絡を取り、状況を把握することになっている。

非常時に備え、内容ある訓練を

年4回行われる防災訓練は、本社勤務の全社員が対象。主に避難訓練と安否確認訓練に取り組んでいる。地震発生後火災が起きたことを想定し、参加者は、防災用品、

■安否確認のルート



非常階段、避難経路、避難場所等を確認し、安否確認システムに各自の状況をメッセージ入力する。

令和5年5月11日に起きた千葉県沖地震の際には、実際に安否確認システムが配信され、訓練通りスムーズに安否確認が実施された。



避難場所に集合。それぞれ避難経路を確認

滞在・外出対応

発災時を想定し、現場オフィスに一晚宿泊

「実践！ サバイバル」として、参加者を募り、社内で一晚を過ごす体験会を実施。

11月下旬の冬季に、空調・電気・水道を使わないことを想定し、非常食を食べ、翌朝7時まで過ごした。

その際、日没までに準備すべきことや、追加で必要と考える物品等について課題を発見し、それらを充実させるという意識が高まった。



- 1 停電発生 オフィスの電気は使用できない
- 2 トイレの使用は可能とする
- 3 食事は非常食が基本。献立に従う
- 4 エレベーターは使用できない

目的 実際にオフィスに一晚泊まり、避難生活を体験し防災意識を高める。冬季に一晚過ごすことの大変さを体感する。避難生活で助け合い、協力することの重要性を知る。

内容 非常食を食べる。電気を使用しない生活をする。災害について話し合う。災害対策本部の実際の運営。

成果 体験会后、問題点の洗い出しと改善を対応。個人が利用する衛生用品（コンタクトレンズ・歯磨き等）を各自ロッカーに常備することを周知。備品を再確認し準備できるものを補充。災害対策本部が不在時に被災した場合を想定し、備蓄庫の鍵の場所や簡易マニュアルを作成。